

## 良好な人間関係づくりとコミュニケーション

9月16日(土)に運動会が行われました。日頃の練習の成果を発揮した競技や6年生をリーダーとした応援合戦では、多くの感動がありました。ご参観、ご協力、ありがとうございました。そして、今、各学年では、校外学習等の体験的な学習や自分で考え行動する探究的な学習が展開しています。

このように子供たちの学習活動が活発になる一方で、2学期は人間関係のトラブルやいじめが年間をとおして一番多く発生する時期でもあります。これまでを振り返ってみると、言葉による嫌がらせ(悪口、暴言、いじり、ふざけ等)がきっかけになって、いじめにつながるがありました。たとえ、ささいな言葉であっても本人にとって不快な言葉であった場合、それを毎日言われることでストレスが蓄積され、心に大きなダメージを受けてしまいます。

そこで、「いやなことを言われたとき」と「いやなことを言ってしまったとき」の二つの場面において、適切な言動をとるための社会的スキルについての学習を各教室で行っています。



【① 嫌なことを言われたら】



【② 嫌なことを言ってしまったら】

①の図のようにAさんから嫌なことを言われた時、Bさんも嫌な言葉を使って返すと、双方の感情が高ぶってトラブルになります。逆に黙っていれば、Bさんはストレスを抱え込みます。そこで、相手に言われたことで、自分は嫌な思いをしていると伝えること(アイ・メッセージ)が大切です。自分が嫌な思いをしていると表明しても、相手が嫌な言葉を続ける場合は、「先生に言うよ」と大人の介入を相手に伝えます。これを「告げ口」と捉える子供もいるかもしれませんが、そうではありません。Bさんが自分を守るための大切な方途です。

一方、②の図のように、相手にとって嫌な言葉をしてしまったときの対応ができることも大切です。Aさんが自分の発した言葉によって「Bさんは嫌な気持ちをしている」と気付いたなら、まずは、謝ることです。さらに、相手の立場にたって、もしBさんが困難を抱えているのであれば、「手伝うよ」というように寄り添うことができると、関係の修復を図れます。

今の子供たちは、昔と違って、群れになって自由に仲間と関わるのが少なくなっています。また、テレビやゲーム、インターネット等で、相手をからかったり、攻撃したりする言葉や場面に接することもあります。こうした現状を踏まえて、上記のように適切な社会的スキルについての学習を行うことにしました。

先日、たまたま大縄跳びをしている子供たちのそばを通った時のことです。ある子が「いれて」と言うと、すでに遊んでいる一人の子供が「いいよ。でも、けがせんといてね」という言葉が返ってきました。ちょっとした一言ですが、遊びに加わろうとしていた子は、気を付けて遊ぼうという心もちになったかもしれません。また、落とし物を私が拾ったとき、それを気にして名前を確認し、「私が届けます」と言ってくれた子供もいました。こうした気遣いや思いやりのある寺家っ子が増えることを願っています。(校長 広田 積芳)